

Mt.Fuji World Heritage Loop Bus

富士山世界遺産ループバス



構成資産

北口本宮富士浅間神社 (きたぐちほんみやふじあまのこじ)



浅間大神が祀られていた遷拝所を起源とし、1480年には「富士山」の鳥居が建立され、16世紀半ばには浅間神社の社殿が整っていました。富士講とのつながりが強く、1730年代に富士講の指導者である村上光清の寄進によって建造物群の修復工事が行われ、現在にみる境内の景観の礎が形成されました。

御師住宅 (おしじゅうたく)



御師は、富士講信者が登拝を行うのに当たり、宿や食事を提供するなど一切の世話をするとともに、日常は富士山信仰の布教活動と祈禱を行うことを業としました。御師屋敷の多くは短冊状をなし、表通りに面して導入路を設け、敷地を流れる水路の奥に住宅兼宿坊の建物が建てられています。写真は旧外川家住宅です。※小枝野家住宅は非公開(富士吉田市歴史民俗博物館において模造復元住宅を見ることができます)

河口浅間神社 (かわぐちあさまじんじや)



9世紀後半に起こった噴火を契機に、北麓側に初めて建立された浅間神社であると伝えられています。浅間神社を中心とした河口の地は、富士登拝が大衆化した中世後半から江戸時代まで御師集落として発展を遂げました。現在も富士山と密接に結びついた宗教行事を行っています。

忍野八海 (おしのはっかい)



富士山の伏流水による八つの湧水地で、富士山信仰に関わる遷拝地として八海それぞれに八大竜王を祀っています。富士登拝を行う道者たちはこの水で穢れを祓いました。長谷川角行が行った富士八海修行になぞらえ「富士山根元八海」と唱えられた古跡の霊場と伝えられ、1843年に富士講信者によって再興されたとされています。